

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
自己評価番号	外部評価番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
28		地域包括ケアシステムの資源として、できるだけ入院を回避するなど、入居者の状態維持に努めることがより一層求められる。	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりに必要な体力を維持していただくために、 ・栄養ケアマネジメントを半年ごとに実施して食事面の配慮につなげる。 ・生活機能向上連携を活用しながら、個別のニーズに沿って身体機能の維持・向上を図り、日常生活活動の持続を目指す。	10ヶ月
36	14	ユマニチュードを意識した声掛けや接し方に取り組み始めて効果を感じるケースも出てきた。今後もその意識を高めて、高齢者虐待や身体拘束の予防に努める必要がある。	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・「視線を合わせて」「話しかけながら」「優しく触れる」ことを全員が身につける。 ・プライバシーに配慮した声掛けの内容とタイミング、声の大きさを考えて行動に移すことで、ご利用者の尊厳を守り意欲の低下を防ぐ。	10ヶ月
1	1	理念に基づいて毎年度の行動目標を掲げているが理念自体の意識付けが低くなってきている。新しい職員も理念に共感して職務を全うできるようにしたい。	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	・節度のある態度で同僚、ご利用者、地域の方と関係を築く。 ・一年を通して喜怒哀楽を共にする時間を継続的にもち、関係を深める。 ・専門職として地域に貢献する意識で自分の役割を全うする。	10ヶ月

